



# 自治医科大学附属病院 専門研修プログラムのご案内



# 自治医科大学附属病院は19領域すべてにおいて 充実した専門研修プログラムを整備しています。



病院長 佐田尚宏

自治医科大学附属病院では、2019年4月の働き方改革関連法案施行に伴い、「医師のトレーニング」に重点を置いて、「働いた方を働いただけ処遇する」労務管理を導入し、業務改善・負担軽減に取り組んでいます。それぞれの領域をしっかりと学び、将来に繋がる専門医プログラムを基本19領域すべてで整備し、実力のある専門医を育成します。



卒後臨床研修センター センター長 山本真一

初期臨床研修では「総合力を鍛える」を合言葉に、研修目標を達成できるようバランスのとれた研修プログラムを組むことによって、医師としての基礎を固めるとともに、19領域すべての専門医プログラムへの橋渡しができるように工夫をしています。初期後期研修から新専門医制度のキャリア形成まで全力でサポートし、希望を実現することを約束します。



卒後臨床研修センター 後期研修管理部門 佐藤健夫

2018年度から新専門医制度での後期研修がスタートしました。自治医科大学附属病院では地域医療から先進医療まで専攻医の皆様が充実した後期研修を行えるように病院全体で取り組んでいます。このパンフレットをご覧頂きご興味のある領域まで遠慮なくご連絡頂ければと思います。志の高い皆様をお待ちしています。ぜひ共に学びましょう。

C O N T E N T S	内科学講座……………	1	とちぎ子ども医療センター小児科	9	リハビリテーションセンター……	16
	外科学講座……………	2	精神医学講座……………	10	形成外科学部門……………	17
	皮膚科学講座……………	4	整形外科科学講座……………	11	病理診断科……………	18
	産科婦人科学講座……………	5	眼科……………	12	臨床検査医学講座……………	19
	耳鼻咽喉科……………	6	腎泌尿器外科学講座……………	13	総合診療……………	20
	脳神経外科学講座……………	7	放射線医学教室……………	14		
	麻酔科学・集中治療医学講座……	8	救命救急センター……………	15		

# 内科学講座

全国の初期研修医の皆さん、  
こんにちは。自治医科大学  
内科学講座主任教授の山本  
博徳です。

我々の自治医科大学附属病  
院における研修には三つの  
大きな特徴があります。ま

ず一つめですが、自治医科大学の卒業生は自分の出身  
県での義務年限があり母校に残ることができないので、  
数名の栃木県卒業生を除き他大学を卒業したレジデ  
ントの方々が本学に集まってきて下さるということです。  
したがって、ほとんどが初対面の仲間であり、一斉に  
スタートするという同じ条件のためか、すぐに仲良く  
なり、お互い助け合って研修している姿が見られます。  
学年が上がってスタッフになってもこれが続くようで、  
内科系・外科系の境目さえ超越した風通しの良い医療  
の原型になっています。二つめの特徴は、自治医科大学  
附属病院は地域の第一線の病院という顔を持っている  
ため、北関東全域や南東北から患者さんが来院され、  
症例のバラエティーが非常に多いことです。普通に研修  
していれば専門医取得の際の症例数で困ることはありません。  
三つめは臨床研修に精通した内科各診療科ではありま  
すが、実は研究の実力も全国屈指であり、研修に引き  
続き入局してもキャリアパス形成に関しては信頼して  
いただいで大丈夫です。大規模な大学病院で

ありながらも臨床、  
教育、研究のバラ  
ンスが取れている  
ことも自治医科大学  
内科学講座の特  
徴です。

後期研修の方のための新しい専門医制度は、2018年度  
から開始されました。当院での内科専門医研修プロ  
グラムについてはこちらをご覧ください。

[http://www.jichi.ac.jp/naika/pdf/program\\_v1.2.1.pdf](http://www.jichi.ac.jp/naika/pdf/program_v1.2.1.pdf)

内科系のすべてのサブスペシャリティに対応していま  
す。



研修される皆さんの  
ために平成24年度  
に新しいレジデント  
ハウスも完成してい  
ます。完全個室で冷  
暖房設備、洗濯機、  
冷蔵庫もあり、もち



ろんインターネット回線も完備されています。大学病  
院見学の際には是非、このレジデントハウスも見学し  
てみて下さい。

最後に私自身からみた自治医科大学附属病院での研修  
の良いところを書いてみたいと思います。栃木県は人  
口も適度でゆったりとしていて、とてもいいところ  
です。一方で1時間と少しで都心にアクセス可能ですし、  
東京や横浜で開かれる学会や研究会にも出席が容易な  
ことは非常に大きなメリットと考えています。またこ  
の医療圏でのトップの医療機関だからこそ大都会の病  
院よりも多く希少疾患を目にすることも可能ですし、  
良いことばかりだと私は思っています。一人でも多く  
の方が自治医科大学附属病院で研修されることを祈  
っております。

内科系スタッフです。皆様をお待ちしています！

【内科学講座ホームページ】



詳しくは <http://www.jichi.ac.jp/naika/> をご覧下  
さい。

【卒後臨床研修センター ホームページ】新専門医制度  
の案内や募集についての情報が掲載されています。

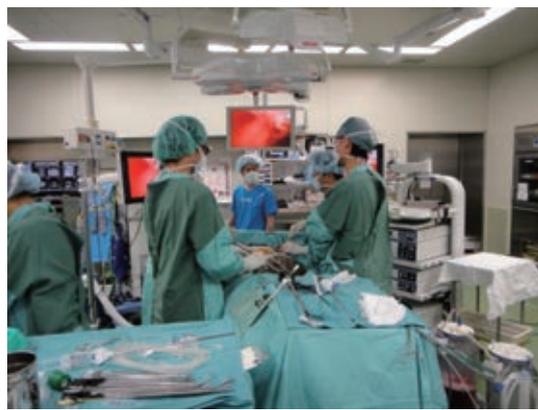
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】内科学講座 (<http://www.jichi.ac.jp/naika/>) もしくは各診療科のホームページをご確認の  
上、ご希望の各診療科まで是非お気軽に御連絡下さい。



## 自治医科大学 外科専門研修プログラム2019

あなたの外科医としての第一歩を私たちと一緒に始めませんか？  
あなたの期待に全力で応えます。



自治医科大学 外科学講座 栃木県下野市薬師寺3311-1  
<http://www.jichi.ac.jp/geka/Senmoni.html>

# 外科専門研修プログラム 2019 のご紹介

## 研修プログラムの目的と使命

- (1) 医師としてまた外科医として安全で質の高い医療を提供できる外科医を育成する。
- (2) 標準的な医療を提供でき、患者への責任を果たせる外科医を育成する。
- (3) アカデミックマインドを有した外科医を育成する。
- (4) 外科学の横断的な診療連携により、地域医療に貢献できる総合的な外科医を育成する。
- (5) 外科領域全般から専門性の高い外科医を育成する契機とする。

## 専攻医の受け入れ数について

3年間NCD登録数は21000例で、専門研修指導医は50名で、2019年の募集専攻医数は14名です。

## 研修プログラム説明会と専攻医の採用スケジュール

自治医科大学外科専門研修プログラム管理委員会は、7月5日金曜日に説明会等を行い、外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『自治医科大学外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は以下の方法で入手可能です。

自治医科大学外科の website

<http://www.jichi.ac.jp/geka/Senmoni.html>

消化器一般・小児・移植：

遠藤和洋 (kendo@jichi.ac.jp)

心臓血管・呼吸器：

医局 (0285 - 58 - 7368,  
tcv3514@jichi.ac.jp)

(プログラム説明会)

2019年7月5日 18時から

自治医科大学附属病院 新館南棟5階スカイラウンジ  
参加希望者は前日までに電話(0285-58-7368)か  
e-mail (tcv3514@jichi.ac.jp) で申し込んでください。

(一次登録、二次登録)

2019年度は未定

## 自治医科大学外科専門研修施設群

栃木県 済生会宇都宮病院 上都賀総合病院  
とちぎメディカルセンターしもつが  
国際医療福祉大学病院 小金井中央病院  
古河赤十字病院 結城病院  
JCHO うつのみや病院 那須中央病院  
新小山市民病院 西方病院 石橋総合病院  
芳賀赤十字病院 那須南病院 菅間記念病院  
那須赤十字病院 佐野厚生総合病院

埼玉県 自治医科大学さいたま医療センター  
上尾中央総合病院 さいたま赤十字病院

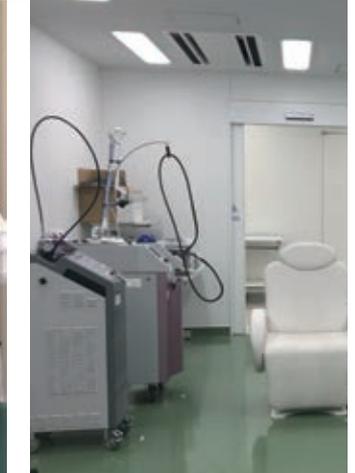
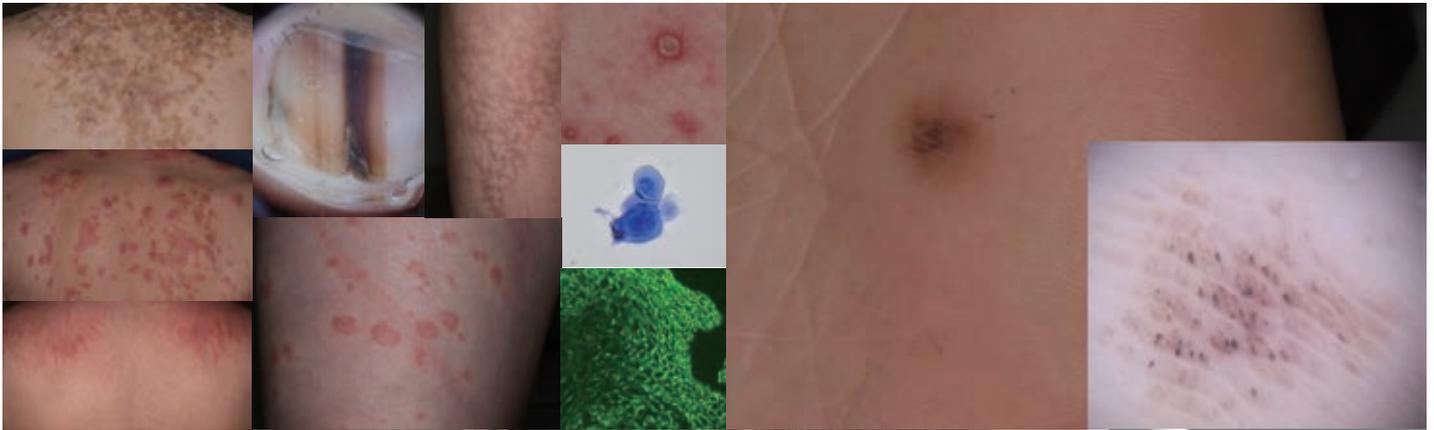
茨城県 常陸大宮済生会病院

群馬県 伊勢崎佐波医師会病院

新潟県 上越地域医療センター病院

長野県 松本市民病院

東京都 東京山手メディカルセンター  
練馬光が丘病院 国府台病院



# 皮膚科学講座

お問い合わせ先：e-mail: [dermat@jichi.ac.jp](mailto:dermat@jichi.ac.jp)

## 色と形の科学



### 皮膚科新専門医制度は5年間

5年間は長いと思うかもしれませんが、プログラムの内容はほぼ広く、サブスペ相当ものまで含みます。皮膚科専門医習得後は、問診と視診から、深く原因を推理し、診断と治療を考え、必要に応じて自分で手術し、組織病理を診断できるようになります。豊富な症例と幅広い診療体制により、最短で十分な経験を積むことができます。毎日が新しい発見に満ちています。少しでも興味あるかたは連絡を。

<http://www.jichi.ac.jp/usr/derm/>

# 産科婦人科学講座

1974年4月に創設された比較的新しい講座です。自治医大の卒業生は、各自の出身県での義務年限があり、母校に残らないので、医局員の出身大学も様々です（総勢50名）。そのため、学閥などはなく、アットホームな雰囲気のもとで診療、研究に従事しています。さらに、大学の附属病院でありながら、周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌不妊の3分野とも症例が豊富であり、産婦人科臨床を万遍なく学べ、また、婦人科外来や思春期外来で「女性医学」についても学べます。

## 自治医大の年間症例数

周産期	分娩数	約1000件
	双胎数	約90件
婦人科腫瘍	卵巣癌	約90件
	子宮体癌	約70件
	子宮頸癌	約50件
生殖内分泌	ART (高度生殖補助医療)	約700件

初期研修で重点的に産婦人科研修が可能な「産婦人科志望コース」(※最長1年間研修)、また、後期研修用の自治医大産婦人科プログラムがあります(2017年度は6名、2018年度は5名、2019年度は7名が選択し後期研修中です)。詳しくは、<http://www.jichi.ac.jp/usr/obst/resident/senior/index.html> をご覧下さい。

研修施設群は、基幹施設(自治医大)と連携研修施設(芳賀赤十字、佐野厚生、国際医療福祉大学、那須赤十字、足利赤十字病院)です。各施設とも栃木県内であり、効率的な研修が可能です。



専門医取得には、専門研修施設群で通算3年以上の産婦人科研修が必要であり、大学で2年間、連携施設で1年間の研修を予定しています(4年目、もしくは5年目は連携施設で研修予定)。期間内に修了すべき要件としては、i)一定数の分娩、帝王切開、腹腔鏡下手術、生殖補助医療などの研修、ii)学会発表、iii)論文発表などがあります。詳しくは、[http://www.jichi.ac.jp/usr/obst/resident/senior/pdf/h30\\_03.pdf](http://www.jichi.ac.jp/usr/obst/resident/senior/pdf/h30_03.pdf) をご覧下さい。

## 自治医大の1年間の症例数

(3年間で研修すべき件数)	自治
1)前置胎盤(5)	30例
6)浸潤癌(5)	200例
7)腹腔鏡OPE(15)	70例
9)体外受精(5)	700例

専門医取得に必要な症例数や学会・論文発表の機会も多数あり、余裕を持って専門医取得の準備をする事が出来ます。

また、平日夜間と土日休日は、主治医制でなく当直体制です。急患受診、分娩、緊急帝王切開、緊急手術に備えて常時3名で当直しています(内2名は専門医)。正常分娩も数多く扱っており、大学病院でありながら一次から三次救急までの診療を行っている事も特徴です。軽症患者から、救急搬送、他院からの転院搬送依頼など、様々な救急患者の対応を研修する事も可能です。当直医の負担軽減のため、当直翌日は当直業務終了後に帰宅できます。一人でも多くの方が自治医大産婦人科で研修されることを祈っております。

随時、医局の見学を受け付けております。お気軽に電話もしくはメールでお問い合わせください。

TEL : 0285-58-7376

E-mail : kr23@jichi.ac.jp

【産科婦人科学講座ホームページ】

<http://www.jichi.ac.jp/usr/obst/index.html>

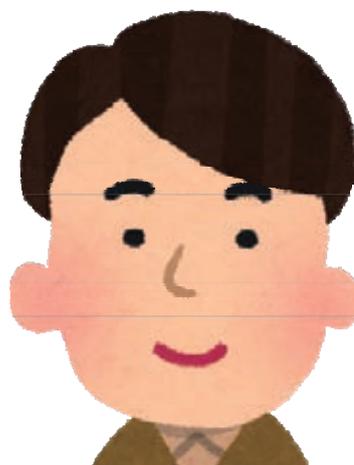
# 「生きる」を支える 耳鼻咽喉科・頭頸部外科医を目指そう

## 感覚と機能をささえる耳鼻咽喉科



聴覚  
平衡覚

嚥下  
音声



嗅覚

味覚  
摂食

## 多彩な選択肢

内科系



外科系



耳科  
平衡神経科  
鼻科  
頭頸部外科  
口腔咽頭科  
喉頭科  
気管・食道科



## 診療・研究を育成支援

自治医科大学耳鼻咽喉科 <http://www.jichi.ac.jp/oto/index.html>  
連絡先 [hiroshi@jichi.ac.jp](mailto:hiroshi@jichi.ac.jp)

各分野のエキスパートの存在

豊富な臨床経験

中耳のマイクロ手術

人工内耳手術

鼻副鼻腔のナビゲーション下内視鏡手術

頭頸部腫瘍手術、頭蓋底手術、縦隔手術

難聴

顔面神経麻痺

花粉症などのアレルギー疾患

めまい、平衡障害

感染症

音声障害、嚥下障害

先端の研究課題

Antiaging, Cancer Stem Cells, Oncolytic Virus Therapy, Cancer Immunology

# 脳神経外科学講座

自治医科大学脳神経外科学講座は、アットホームな雰囲気の中、各医師が自由に活動していますが、よりよい脳神経外科診療を提供するという共通理念で強くまとまっております。

現在、大学附属病院に求められる医療水準は極めて高いものであり、当講座は脳神経外科の全領域において最先端の診療を提供しています。一方基幹病院に求められる臨床レベルの高まりに伴って、本邦では研究の質や論文数の低下が危惧されています。しかし、臨床の質を高め維持するために、研究活動は欠かすことのできないものであることは言うまでもありません。当講座では、日々の脳神経外科診療だけでなく、高いレベルの臨床研究・基礎研究も行っています。

日本の医学と医療は、専門医制度、医療安全管理や研究倫理における大きな変革に直面しています。このような変革に的確に対応しつつ、講座をさらに発展させるために、共に歩んでくれる若い力は常に大歓迎です。

## 当講座における臨床診療の特徴について

脳神経外科診療の全領域に充実したスタッフを擁し、国内最高水準の脳神経外科治療を提供しています。脳血管障害・脳卒中に対しては、脳動脈瘤・脳動静脈奇形の手術、頭蓋内外動脈バイパス術、頸動脈内膜剥離術などの手術治療はもちろん、脳卒中センターや脳血管内治療部門と地域密着型の脳卒中診療体制を確立し、急性期から回復期までカバーします。

てんかん外科・脳深部刺激療法・下垂体手術・小児脳神経外科などでは、北関東のセンター的存在です。てんかん外科では乳児から成人まで、症例に応じた最適な治療を提供します。大脳半球離断術や脳梁離断術などの特殊手術、海馬多切術、迷走神経刺激療法、深部電極と硬膜下電極を併用した頭蓋内モニタリングなど、全ての手技について国内最高水準の治療を行います。当院は、2015年に開始された国のてんかん地域連携事業の8拠点のうちの一つに選定されました。

パーキンソン病などの不随意運動に対する脳深部刺激療法も多数行われ、定位手術では、遺伝子治療部や小児科と連携した国内有数の遺伝子治療の拠点となっています。

脳腫瘍治療ではコンピュータ技術や画像解析を応用した低侵襲・機能温存を重視した手術治療を実現、術中ナビゲーション・3D拡張現実を応用した術中支援などの技術は国内トップクラスです。機能温存のための術中モニタリングも生理機能部門の支援のもと極めてスムーズに行われ、耳鼻咽喉科・形成外科と合同での大規模頭蓋底手術も施行しています。

## 当講座における研究活動

機能的神経外科分野では、脳深部電極による局所フィールド電位記録を応用した脳深部領域の神経細胞群活動の評価や光トポグラフィーを用いた脳卒中患者の神経特性解析とリハビリへの応用の研究など精力的に活動しています。

脳脊髄腫瘍分野では、グリオーマにおけるIHD(イソクエン酸デヒドロゲナーゼ)遺伝子に関する研究を中心に行い、臨床応用し、より優れた脳腫瘍治療を行っております。

脳血管内治療部門は、症例ごとの3D血管モデルを作成、流体力学の研究や手術シミュレーションに役立てています。

3Dモデルを用いた手術シミュレーションについては、非常に幅広く研究が行われ、個々の症例に合わせて術前シミュレーションや術中検討に役立てています。さらに、特殊なモデルを作成して医学生や研修医の訓練にも応用しております。



当教室の医局員の出身大学は様々で、偏った学閥などありません。それぞれの専門分野で全員が力を合わせて仕事をしています。脳神経外科は救急医療においても重要な役割を果たしており、脳血管障害の症例が豊富なことはもちろんですが、加えて脳腫瘍・機能的脳神経外科・小児脳神経外科・血管内治療など幅広く診療を行い、症例も非常に豊富です。

脳神経外科は多忙ではありますがとてもやりがいがあります。少しでもご興味のある方は、自治医科大学脳神経外科ホームページをご覧ください。病院見学なども随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

脳神経外科HP：<http://www.jichi.ac.jp/brain/top.html>



連絡先：自治医科大学 脳神経外科  
329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1  
Phone: 0285-58-7373, Fax:0285-44-5147  
E-mail: s-neuro@jichi.ac.jp

# 麻酔科学・集中治療医学講座

初期研修医の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？当院麻酔科についてご紹介いたします。

大学病院として初めて子ども病院を併設した当院の年間麻酔科管理症例は約7000件あり、新生児から超高齢者まで、common diseaseから特殊疾患までバラエティーに富んでいます。周産期センターもあり帝王切開の多さも大学病院有数で、専門医取得に必要な各分野の症例を単独施設で経験できる全国でも数少ない施設です。

後期研修では下の表のように研修レベルがステップアップします。

まず硬膜外麻酔、分離肺換気、産科麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔、ICUローテーション、PICUローテーションなどを2年間かけて経験し、厚生労働省指定麻酔科標榜医、認定医を取得します。その後、麻酔科術前診察外来、ペイン外来などバランスのとれた麻酔経験の後、専門医取得を目指します。ぜひ皆さん、自治医大麻酔科を見学に来てください。小児麻酔、小児集中治療、小児心臓、成人心臓、神経ブロックなど各分野のエキスパートが豊富で専門医取得にあたり十分な教育が受けられると確信しています。

クラス	目 標	対象手術	修得手技	関連領域
初期研修	基本手技(マスク換気+経口挿管)を修得し、上級医の指導下にPS:1・2症例の麻酔管理を行う。	耳鼻科, 整形外科, 婦人科, 開頭, 開腹(除肝切除), 泌尿器	麻酔器準備, マスク換気, 経口挿管, 脊髄くも膜下麻酔, A-line挿入	
1年目前期	基本手技を習得の上で, PS:2症例の麻酔計画を立て, 上級医の指導の下に麻酔管理を行う。	泌尿器科(膀胱・前立腺全摘) 外科(含肝切除), 帝王切開(CSEA) 生体肝移植レシピ(2nd), 学童	緩速導入, ファイバー挿管 輸血の判断, CV挿入(内頸), 硬膜外麻酔, 体幹のブロック	
1年目後期	循環・呼吸動態の変動の大きい手術で起こる変化を予測し, 上級医の指導の下に麻酔管理を行う。	小児, 帝王切開(全麻) 開胸手術(呼吸器, 食道) 心臓麻酔(ステント, AAA)	分離肺換気, CV挿入(鎖骨下) 意識下ファイバー挿管, 初級ブロック(大腿神経)	
2年目前期	PS:3症例の麻酔計画を立て, 上級医の指導の下に麻酔管理を行う。	乳児, 肝移植(レシピ1st) 心臓麻酔(弁膜症, 上行置換)	S-G挿入, MEPの管理, 中級ブロック(閉鎖神経等)	ICU ローテーション
2年目後期	PS:3症例の麻酔管理を独力で行う。 気道確保困難症例を予想し準備を行う。	新生児, 検査室での麻酔 心臓麻酔(CABG, 弓部置換)	中級ブロック (腕神経叢, 坐骨神経等)	PICU ローテーション
3年目	PS:3E症例の麻酔管理を行う。 DAMを理解し応援到着までvitalを維持する。	状態不良症例の準備と対応 トリアージ能力	上級ブロック	術前外来 (標榜医取得後)
4年目	PS:4E症例のコマンダーとなる。 DAMを理解し気道確保困難に対応する。	コマンダーとしての役割 突発事象(CVCI, CPA)への対応		ペイン外来 (専門医受験前)

※ ASA PS : アメリカ麻酔学会術前先進状態分類, DAM : Difficult Airway Management  
 ※標榜医取得以降は, 麻酔計画の作成を責任をもって行い, 自力で症例を完遂することを目標とする。  
 ※本プログラム及び個別プログラムは, 症例数や個々の経験をもとに定期的に見直す。

## ローテーションした研修医の声

### ●麻酔科入局 1年目後期研修医

様々な症例に当たっていただき、勉強の日々です。自分の中でレベル up が実感しやすく、モチベーションが保てます。on と off がはっきりしているので、仕事だけでなくプライベートも充実させられます。一緒に成長しましょう！

### ●外科系志望 2年目研修医

他科では経験する機会が限られているような手技を経験できたり、普段使わないような機械や薬剤を使ったりすることが多くあり、大変勉強になりました。自分は将来外科医になることを考えていますが、薬の準備から、気管挿管、術中管理の経験は今後の土台となることだと強く感じています。



2017年9月16-18日に渡り当院で主催した心臓血管麻酔学会での集合写真です。

当科 HP は <http://www.jichi.ac.jp/usr/anes/>  
 プログラムは <http://student.anesth.or.jp/search/2018/105/>  
 見学希望などは  
 医局長：平 幸輝 (ktaira@jichi.ac.jp) まで

“患者にとって最良の麻酔・周術期医療を！”

# とちぎ子ども医療センター小児科

初期研修医の皆様，自治医科大学とちぎ子ども医療センター長の山形崇倫です。当センター小児科の専門研修について紹介します。



当センターの研修には、特徴が3つあります。まず、当センターが大学附属病院という側面だけでなく、子ども病院として地域の第一線の小児総合医療機関としての機能を持っているため、北関東

全域や東北地方からも患者さんが来院されます。さらに当科では、世界的にみても先進的な医療をおこなっているため、例えば遺伝子治療や内視鏡治療を目的に海外からも患者さんがみえます。このように、プライマリーケアから高度専門医療まで、幅広い経験が積みまます。多彩な疾病が集まってくるので、普通に研修していれば専門医取得の際の症例数で困ることはまったくありません。当科では、子どもには全人的な診療が重要と考えており、小児疾患のすべての分野への診療体制をもち、共同して診療しています。さらに、当センターでは外科系も非常に充実していますし、附属病院の成人診療各科との連携もスムーズです。二つめの特徴は、大学にある子ども病院としての特徴を活かし、高いレベルの研究も併せて可能です。たとえば、基礎系講座や成人診療各科との共同研究も盛んです。そのため、専攻医として研修を行いながらも研究を開始することが可能ですし、キャリアパス形成には不安がありません。つまり、大規模な大学附属の子ども病院として、臨床、教育、研究のバランスが取れていることが当センター小児科の特徴です。

三つめは、自治医科大学医学部の卒業生は自身の出身都道府県での卒業義務履行があるため、卒業後は母校に残りません。(数名の栃木県出身者を除き)他大学を卒業した初期研修医や専攻医が日本全国から集まり、日々切磋琢磨しながら当センターを含めた自治医科大学附属病院で研修に従事しています。さらに、構内にあるレジデントハウスは、冷暖房完備の個室で、洗濯機や

冷蔵庫のほかネット回線も備わり、研修環境を整えています。施設見学の際には是非、レジデントハウスもご覧ください。



皆様の活躍できる場所がここにあります。是非研修にいらしてください。

**小児科スタッフ一同、皆様をお待ちしています!**



【小児科ホームページ・連絡先】

<http://www.jichi.ac.jp/usr/pedi/wp/index.html>

メール：dtamura@jichi.ac.jp

新しい専門研修制度は2017年度から実施され、2018年度のプログラムを公開しています。

<http://www.jichi.ac.jp/usr/pedi/wp/recruitment/2018-recruitment20170703/index.html>

【卒後臨床研修センターホームページ】

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

# 精神医学講座

## Offenem Geist

はじめまして、自治医科大学精神医学講座主任教授の須田史朗です。

表題は自治医科大学精神医学講座のモットーとしている言葉で、初代の故宮本忠雄教授より受け継いだものです。ハイデルベルク大学の講堂入口に掲げられている文字で、学問が「開かれた精神」に差し



向けられているものであることを告げています。講座の特徴は、精神病理学、芸術療法（絵画療法、コラージュ療法、音楽療法）、集団精神療法、比較文化精神医学、病跡学から、分子精神医学、精神薬理学、精神生理学などの生物学的研究、疫学、産業精神医学にまで広がる極めて幅広い研究領域を持っていることにあります。私達は“Offenem Geist”の基本理念を軸に、患者さんを師として学びつつ、教室員各自の個性と感性を自由に伸ばし、精神医療の新たな展開を目指して頑張りたいと考えています。志を同じくする多くの皆様の教室への参加を心よりお待ちしております。

## 研修プログラムの概要

自治医科大学附属病院は41床の精神科病床と15床の児童精神科病床を有しています。病床は開放病棟（児童精神科は閉鎖）で、気分障害圏を中心に栃木県内や近隣の医療機関から合併症症例、治療抵抗例を幅広く受け入れています。近年では、超低体重を伴う重症摂食障害や発達障害合併例が増加しています。また認知症疾患医療センターを併設しています。

プログラムの一年目は自治医科大学附属病院精神科での研修となります。二年目以降は主に連携施設での研修に進みます。総合病院精神科、公的精神科病院、単科精神科病院との連携を行っており、それぞれの施設は特色（精神科救急、依存症、医療観察法、訪問診療、児童精神医学、老年精神医学、精神病理学、芸術療法）が際立っていますので、将来的な専攻領域の希望により選択が可能です。また、大学院博士過程への進学についても随時受け入れを行っています。



## 研修プログラムの特徴

自治医科大学附属病院精神科の外来患者数は全国大学病院の中でもトップクラスにあり、処方箋発行件数では院内1位です。common diseaseから専門的疾患、希少疾患に至るまでの幅広い症例の経験が可能です。全体的な方針としては、早期介入による早期回復を目指した治療を心がけており、専攻医は画像診断(MRI、SPECT、光トポグラフィ)、生物学的検査、心理検査、詳細な病歴聴取に基づくアセスメント、薬物療法(クロザピンを含む)、各種精神療法、電気けいれん療法、経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)などを組み合わせた最新・最善の治療を学ぶ事ができます。

精神科では治療と同時にリハビリテーションや環境調整を開始することが重要です。治療方法や介入手段を選択する際に、行き過ぎたパターンリズムは問題となりますが、判断に迷う時に私達は少し「おせっかい」な選択肢を選ぶようにしています。

自治医科大学は女性医師の支援体制が充実しており、産休・育休制度を随時利用することができます。育休制度は男性医師も利用可能です。院内にはファミリーマート、スターバックスコーヒー、書店、旅行代理店があります。

アメニティは充実しており、医局内には当直明けの医師のための休憩室がやデロンギ製全自動エスプレッソマシンが整備されています。

医局には多様性を歓迎する伝統があり、様々な才能やバックグラウンドを持つ医局員がそれぞれ幅広く活躍しています。また、海外留学の経験を持つ医師も多く、現在2名の医局員が海外で研鑽を積んでいます。

是非一度見学にいらして下さい。おいしいコーヒーを準備してお待ちしています。



## 連絡先

- ・精神医学講座ホームページ  
<http://www.jichi.ac.jp/psyc/>
- ・メール  
精神科医局 [psychiat@jichi.ac.jp](mailto:psychiat@jichi.ac.jp)
- ・卒後臨床研修センター ホームページ  
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

# 整形外科科学講座

当院は JR 宇都宮線の自治医大駅より徒歩 10 分のところにあり、敷地内に研修医専用の宿舎を完備しております。当科は、脊椎班、関節班（肩、股、膝、スポーツ）、外傷班、小児班に分かれております。脊椎班ではナビゲーションシステムを駆使した高度な手術から、最小侵襲手術として脊椎内視鏡手術まで幅広く行っております。肩関節、スポーツ班では、県内の野球肘検診を行い、若年者からの肘の故障を防止する取り組みを行っております。また、肩・股・膝関節の人工関節、関節鏡手術にも取り組んでおります。小児班では、側弯症、内反足、先天性股関節脱臼といった疾患にも対応しております。リハビリテーション科との連携も密に行っております。外傷は、骨盤外傷を含めた重度外傷に対しても積極的に取り組んでいます。月に 1 回県内の主要病院のドクターを含め、骨折勉強会を開催しております。

後期研修の方のための新しい専門医制度は、2018 年度から実施されています。新専門医制度のプログラムは公開されており、こちらをご覧ください。<https://www.jichi.ac.jp/usr/orth/resident04.html>

## 〈後期研修 1 年目〉

本院で整形外科医 1 年目として 1 年間の研修を行います。パーツによって班が分かれているため、3 か月ごとに各チームを研修し、学んでいきます。この間に、基本的な整形外科手技、プレゼンテーション、学会発表の仕方、論文作成を学びます。

## 〈後期研修 2-4 年目〉

関連病院に出向し、外傷を中心とした研修を積んでいきます。4 年修了時に専門医試験を受けられるようにプログラムを組んでおります。大学院博士課程への進学を希望する場合には、通常の大学院か社会人大学院かのいずれかを選択し、試験を受けていただきます。試験は年 2 回で、入学は 4 月からとなっております。順調に研修が済み、学会指定の単位の取得、学会発表、論文発表が済んでいれば、4 年目に専門医試験の受験資格を満たします。書類を提出し、試験に合格すると晴れて整形外科専門医になることができます。2018 年よ

り導入された新専門医制度では、大学を含めた研修指定病院で 45 単位を取得することが、これまでの研修と違う点となります。

## 〈後期研修 5 年目以降〉

大学に戻り、整形外科の中で専門を決めて、さらなる研鑽を積んでいきます。希望者には、国内留学、国外留学を斡旋していきます。

## 到達目標

まずは、整形外科専門医を取得します。脊椎、関節、小児整形、手外科、外傷、骨軟部腫瘍、スポーツドクター、リハビリテーションなどの各専門分野に進む前段階として、整形外科全般に及ぶ、知識、技能を身につけてもらいます。多くの指導医や関連病院で学ぶことで人間性やコミュニケーション能力も養って下さい。

## 整形外科系スタッフです。皆様をお待ちしています!



### 【整形外科科学講座ホームページ】

詳しくは <https://www.jichi.ac.jp/usr/orth/index.html> をご覧ください。

### 【連絡先】

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
自治医科大学整形外科  
担当：飯島裕生（研修プログラム統括責任者）  
TEL：0285-58-7374  
FAX：0285-44-1301  
e-mail：y-jima@omiya.jichi.ac.jp

## プログラムの目的

眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。自治医科大学眼科専門研修プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。

1. 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医
2. 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医
3. 診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医

## 指導医と専門領域

**専門研修基幹施設**：自治医科大学附属病院 眼科  
(年間 内眼手術 1,900 件、  
外眼手術約 300 件、  
レーザー手術約 2,000 件)

**プログラム統括責任者**：川島 秀俊 (診療科長)

**指導医管理責任者**：川島 秀俊 (診療科長)

**指導医**：川島 秀俊 (教授、診療科長)

牧野 伸二 (学内准教授、副科長)  
(屈折矯正、弱視、斜視)

井上 裕治 (准教授、外来医長)  
(神経眼科、眼窩、眼附属器)

高橋 秀徳 (准教授)  
(網膜硝子体、ぶどう膜)

原 岳 (非常勤講師) (緑内障)

**専門医**：新井 悠介 (助教、病棟医長)

(白内障、神経眼科)

渡辺 芽里 (助教) (角結膜)

佐野 一矢 (助教) (他科診療連携)

自治医科大学附属病院眼科では、幅広い分野の紹介患者があり、平成 28 年の手術件数は総数で約 1,900 件 (網膜硝子体 700 件、白内障 1,000 件、その他緑内障、角膜移植など 200 件) と眼科専門医が研修すべきほぼすべての手術を多数施行しています。主治医グループ 1 (角結膜、緑内障、白内障、弱視、斜視、小児眼科) と、主治医グループ 2 (網膜硝子体、ぶどう膜、他科診療連携) にわかれ、各グループをローテーションします。ロービジョン、遺伝相談等は、臨床遺伝専門医でもあるプログラム統括責任者が指導します。各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置を習得し、それぞれのプログラムの到達目標を目指します。毎週行っている症例カンファレンスにも参加します。周産期母子センター、外来化学療法センター等を備えた医師臨床研修指定施設なので、他科との連携委員を中心に、あらゆる全身疾患に関わる眼病態も経験することができます。また、学会報告や論文作成の機会も豊富にあります。当院での研修期間中は、こうした活動の機会を得やすいよう配慮しています。

ホームページ：<http://www.jichi.ac.jp/opht/>

メール：川島秀俊 hidemeak@jichi.ac.jp

または眼科医局 ophthal@jichi.ac.jp

# 腎泌尿器外科学講座

全国の初期研修医の皆様、こんにちは。腎泌尿器外科学講座泌尿器科学部門教授の藤村哲也です。私のセールスポイントはロボット支援下根治的



前立腺全摘除・腎部分切除術・根治的膀胱全摘除術 700 例を超える経験です。ぜひ若い先生方に技術の伝承を行いたいと考えています。男性・女性の尿失禁手術も得意としています。

私は東大病院と関連施設で研鑽を積んで自治医科大学に赴任しましたが、自治医科大学は本当に働きやすい良い環境である！と断言できます。私共の講座の全国に誇れる特徴は、泌尿器科学部門と腎臓外科学部門との2部門から構成されており、成人泌尿器科、小児泌尿器科、腎移植と幅広く対応しているところです。成人泌尿器科では、腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣の癌、前立腺肥大症や神経因性膀胱などに伴う排尿障害、男性不妊症、尿路性器感染症、尿路結石、副腎、後腹膜疾患などの診断・治療を精力的に行っています。

ロボット支援下根治的膀胱全摘除術ならびに腎部分切除術は国際水準の治療成績を納めています。さらに、2018年6月から北関東で初めてロボット支援下膀胱全摘除術を保険診療で開始し、年間30件のペースで行う全国屈指の high volume center となっています。シミュレーター Mimic と da Vinci サージカルシステムによる大型動物のロボット支援下手術にて研修を行っており、効率的に技術習得が可能です。

泌尿生殖器腫瘍は腫瘍センターや放射線科治療部門と、男性不妊症は生殖医学センターと連携して診療を行っております。さらに、停留精巣、水腎症、夜尿症、膀胱尿管逆流などの小児泌尿器疾患に関しては、自治医科大学とちぎ子ども医療センターにおいて小児泌尿器専門医が診療にあたっております。腎臓外科学部門では腎移植、腹膜透析カテーテル留置術、シャント造設術などの腎不全領域の治療を行っています。このようにひとつの講座が、臨床において三つの診療ユニットに分かれ、有機的な連携をもって泌尿器疾患を診療す

るシステムは国内に類をみません。そのような利点を生かして、腎泌尿器外科学分野において最先端の医療を研修することが可能で、将来様々な分野で活躍できるスペシャリスト育成を目指しています。

基礎的研究では次世代シーケンサーを用いて難治性前立腺癌に關与する遺伝子発現および機能解析、腎細胞癌に対する遺伝子治療、尿酸カルシウム結石産生抑制機序の解明、尿路再建における再生医学などの研究を行っています。

研修される先生方のために、平成24年度に新しいレジデントハウスも完成しております。完全個室で冷暖房、洗濯機、冷蔵庫、インターネット回線完備されています。自治医大は東京・上野駅まで50分程度でアクセス可能で、東京・横浜で開催される学会、研究会に出席することは容易です。

大学院に進学し課程博士はもちろんのこと、私も論文博士ですが、大学院へ進学せず、英語論文執筆にて医学博士となれる体制も取っています。

ぜひ、後期研修に自治医科大学 腎泌尿器外科学講座にお越しください。明るく、元気に働くスタッフ一同お待ちしております。



見学随時実施しています。お気軽に腎泌尿器外科学まで <urology@jichi.ac.jp> メールください。

HP : <http://www.jichi.ac.jp/uro/index.html>

# 放射線医学教室

全国の初期研修医の皆さん、こんにちは。自治医科大学内放射線医学教室主任教授の杉本英治です。

放射線診断学では、すべての年代にわたる全身の臓器や器官におきる疾患を対象としています。また、最新鋭のMRIから単純X線装置まで、様々な検査装置を使います。そのため、一人前の放射線科医になるには幅広い知識と経験が必要となります。放射線診断医は、高い専門性を備えた Generalist であり、その育成のためには特別なプログラムが必要です。また、放射線科研修プログラムを選ぶ際には他科の研修プログラムを選ぶのとは違う視点を持つことが大切です。一人前の放射線科医となるには以下の3点が必須です。

- ①**経 験**：多数の症例の読影・検査の立案と監督・IVR などの実技の実践
- ②**知 識**：疾患全般・被ばく・放射線物理学など幅広い放射線医学の知識
- ③**人間性**：他科の医師・大勢のコ・メディカルとのコミュニケーションスキル

放射線診断学の研修プログラムを選ぶにはポイントが3つあります。

- ①指導医の質と研修プログラムの透明性
- ②疾患の多様性と放射線科設備の充実度、コメディカルのサポート
- ③各種セミナー・研究会・勉強会への良好なアクセス

自治医科大学放射線医学教室にはその3つがそろっています。①熱意あふれる若い指導医と明確な研修プログラム。②国内有数の症例数と最新鋭の装置・多数の診療放射線技師と看護師の業務サポート③各種学会・セミナー・研究会へのフリーアクセスと参加費・交通費の支給

**放射線科一同、皆様をお待ちしています**



## 放射線治療部門

放射線治療学教授の若月優です。“がん治療”の中で放射線治療の役割を皆さんはどのように考えているでしょうか？放射線治療の分野は日進月歩の分野であり、機器やIT技術の進歩に伴って急速な発展を遂げています。



粒子線治療や高精度放射線治療、画像誘導放射線治療など、以前には想像できなかった新しい治療が実現されています。結果として、多くの疾患で“切らずに治すがん治療”として副作用の少ない根治的な放射線治療が行われるようになっていきます。しかし、まだまだ日本には十分な放射線治療が提供できていない地域が存在します。がん患者全体の放射線治療を受けている患者の割合が欧米では50-66%であるのに対して、日本ではわずか30%しかありません。この差こそが放射線治療のさらなる可能性です。自治医科大学の使命は地域医療の充実であり、「全てのがん患者さんが当たり前放射線治療を受けられる環境」を作ることが我々の使命と考えています。

### 放射線治療医を目指す研修医の皆さんへ

自治医大の放射線科では診断と治療の両方を効率よく学ぶことができ、新専門医制度にも対応可能なプログラムを用意しております。また最先端の放射線治療を学びたい方には、日本国内の放射線治療の先端施設や、海外の研究施設・有名大学への国内・国外留学も可能な状況です。自治医大に新しい放射線治療のチームを作っていきたいと考えております。私たちと一緒に栃木県のそして日本の放射線治療を変えてみませんか？

【放射線医学教室ホームページ】

詳しくは <http://www.jichi.ac.jp/radiol/index.html> をご覧下さい。

【卒後臨床研修センター ホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】放射線医学教室もしくはメールで、是非お気軽に御連絡下さい。jichi-radiology@jichi.ac.jp

# 救命救急センター

全国の病院で初期臨床研修中の皆さん、こんにちは。自治医科大学附属病院 救命救急センター長の間藤卓です。

平成 29 年度から始まった専門研修プログラム制度、皆さんはこれから自分の進路について色々悩んでいることと思いますが、その中に救急という選択肢はあるでしょうか。



皆さんの救急科のイメージはどんなものでしょうか？ 24 時間休むことなく働き続け、どんな疾患に対しても的確な判断、そして迅速な処置。もちろんそうなりたいと感じる事はありますが、TV ドラマに出てくるような超人的な医師は存在しません。当センターは「働きがいのある救急」をめざし、教育体制からワークライフバランスまで、多彩な QOL (クオリティ・オブ・ライフ) と多様な価値観という視点から環境整備を続けています。また、現代医療の専門化・細分化が進んでいる今、多様な症例と向き合うために、「救急」は、医師としての総合的な力、広い視野と社会性を身に付ける貴重な機会となります。

敗血症ショック、中毒、外傷など中等症から重症まで、幅広く多彩な臨床経験ができる場であり、俯瞰的な視点と複合的な判断力が問われる職場で症例を重ねることは、医師としての臨床能力を高め、今後のキャリア形成に大きく役立ってくれると思います。

救急のプロフェッショナルを目指す人はもちろん、現在の医師として足りないものを補う



ための一時期の " 修行 " としても、非常に有意義な経験ができるはずですよ。

いろいろな人が居るからおもしろい・・・みなさんの医師人生をより充実させるためにも、ぜひ私たちの施設を活用してみてください。



## 救命救急センター前で集合写真

【救急医学講座ホームページ】

詳しくは、<http://www.jichi.ac.jp/emerg/> をご覧ください。

【卒後臨床研修センター ホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】救急医学講座もしくは各診療科のホームページをご確認の上、是非お気軽に御連絡下さい。メール：[eccm@jichi.ac.jp](mailto:eccm@jichi.ac.jp)

# リハビリテーションセンター

初期研修を終了予定で、今後の専門研修について考慮されている方たちに当院のリハビリテーション専攻医プログラムについて紹介したいと思います。

リハビリテーション専攻医は、病気や外傷、加齢などによって障害を抱えた患者が、活動性を向上し、社会参加に向けてのリハビリテーションを達成できるよう総合的に支援する役割を担っています。診療にあたっては、特定の臓器や疾患を超えて総合的な診療能力取得を基本として、障害に関する知識、診断はもとより、外科的治療、内科的治療、物理的治療（放射線治療、理学療法）、機能代償による治療（義肢・装具、住宅改修など環境整備）、社会保障制度について知る必要があります。

当院のリハビリテーション専攻医プログラムでは急性期から慢性期、診断から治療に至るまで標準的な医療を実践でき、患者から信頼されるリハビリテーション専攻医となるよう十分な知識と経験を身に付けるための構成となっています。自治医科大学附属病院と栃木県内にある3つの連携施設とが密に連絡を取りあい、研修医の希望を取り入れながら修練を進めていきます。当院のプログラムで研修を行うメリットは以下の通りです。

- 1) 自治医科大学は栃木県にある医科大学として高次医療を担当しているため症例が集積し、多くの難治症例や稀少疾患症例を経験することができる。
- 2) 自治医科大学附属病院には基本19領域のすべての専攻医研修プログラムがあるため、お互いの研修を補完でき、サブスペシャリティを習得するのにも有利である。



- 3) 連携施設と協力することで、急性期から慢性期まで、地域完結型の研修が可能となっている。
- 4) 自治医科大学の卒業生は地元で研修するため、レジデントが特定の大学に偏ることがなく、いろいろな大学の卒業生が、自由な雰囲気、環境で研修できる。
- 5) 栃木県は、日光や那須高原などの有名観光地を有し、

自然に恵まれている一方、東京にも新幹線で1時間弱で行くことができ、学会や種々の研究会に出席するのにも利便性がある。

リハビリテーションは障害をもった患者さんに対して、それぞれの状態に応じた最大限のADLおよび生きがいを導き出すことを目的とし、現在の医療が健康寿命を重視するようになるにつれ、リハビリテーション医療に対する期待が益々高まってきております。そのような中、リハビリテーション医の数は絶対的に不足しており、早急の養成が喫緊の課題となっております。当リハビリテーションセンターも45年を迎え、年々拡充、充実を図っているところで、将来を担う専攻医へのご応募を心よりお待ちしております。随時見学も受け付けておりますので、いつでも連絡ください。

【リハビリテーションセンターのホームページ】

<https://www.jichi.ac.jp/hospital/top/central/09.html>

【卒後臨床研修センター ホームページ】

当院のリハビリ専攻医プログラムが掲載されています。

<http://www.jarm.or.jp/facility/document/11.pdf>

【連絡先】 リハビリテーションセンター長 森田光哉

☎ 0285-58-8992 E-mail: morita@jichi.ac.jp



# 形成外科学部門

形成外科とは、身体に生じた先天性もしくは後天性の組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な悩みに対して、あらゆる手法や技術を駆使し、組織の機能をより正常に、また形態的にもより美しくすることによって、患者様の生活の質 "Quality of Life" の向上を目指す分野です。外科的な手法を多用しますが、外科診療領域とは別の独立した基本診療領域になります。

自治医科大学での標榜診療科としては、形成外科、小児形成外科、美容外科の3診療科があり、吉村浩太郎教授以下10名の臨床スタッフで診療を行っています。対象疾患としては、頭頸部・乳房再建、顔面神経麻痺、熱傷、難治性潰瘍（フットケア）、癩痕拘縮、ケロイド、皮膚・皮下腫瘍、顔面骨骨折、顎変形症、リンパ浮腫、口唇口蓋裂、指の先天異常、耳の先天異常、頭蓋縫合早期癒合症、眼瞼下垂、レーザー治療（あざ、しみ）、脂肪移植（再建）、さまざまな美容手術などがあげられます。

## 当科の研修には大きく3つの特徴があります。

一つ目は、偏りのない症例が数多く経験できるということです。都心の場合、研修施設は多いですが、各施設の得意専門分野に特化する傾向があり、経験できる症例が偏りがちになります。当院は栃木県の随一の特定機能病院であり、北関東や南東北から数多くの患者さんが来院されています。そのため対応する疾患の種類も多様であり、専門医取得時にも経験症例不足で悩むことはありません。特に穿通枝皮弁を利用した腫瘍摘出後の再建手術、顎変形症に対する上下顎骨切り手術、及び乳房欠損に対する脂肪移植術やハイブリッド手術など、他施設ではなかなか経験出来ないような症例も数多くあります。

二つ目は、自治医科大学にはとちぎ子ども医療センターという、小児専門医療の施設があるため、先天異常の患者を多く経験できることです。すなわち、様々な種類の重症の頭蓋骨早期癒合症、重度の口唇口蓋裂、小耳症をはじめとする耳介変形・欠損、手指・足趾の先天異常など、小児形成外科を深く学び習得することが

できます。先駆的治療も多く、例えば、顔に全く傷を付けることなく頭蓋骨、顔面骨を移動させ、さまざまな先天異常を修復する治療（MCDO法）を行っています。

三つ目は、充実した研究施設であるということです。当施設は臨床研修だけでなく、基礎研究や大学院での教育にも力を入れています。再生医療、創傷治癒、ケロイド・癩痕の治療をはじめとするテーマで、研究専門の研究員（ポスドク）やスタッフ（技術補助員など）を雇用して、先駆的な研究を数多く行っています。専門医を習得した後に大学院に入り、研究に邁進することも可能ですし、希望があれば、後期研修中も臨床と研究を両立させ、科学論文や博士学位取得のための研究に参画することも可能です。さらに、海外の医師や研究者との国際的な交流も活発であり、国際学会に参加、発表する機会も多く、海外留学も積極的にサポートしています。

自治医科大学の卒業生は出身県での義務研修があり、基本的には当院に残ることができません。そのため、他大学出身者が同じ条件でスタートする立場であり、自由闊達な環境の中で研修に励むことができます。2012年に完成した新しいレジデント用宿舎は、完全個室で、インターネット回線、大浴槽、トレーニングルームなど施設も充実しています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/early/house.html>

見学希望者の皆様をお待ちしております。説明会も随時行っております。

【形成外科学部門のホームページ】当科の対象疾患の詳細に関しては <http://www.jichi.ac.jp/keisei/> をご覧ください。

【卒後臨床研修センターのホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【見学などのお問い合わせ】

吉村浩太郎 yoshimura@jichi.ac.jp

電話 0285-58-8940

# 病理診断科

病理診断部部长兼病理診断科診療科長の福嶋敬宜（ふくしまのりよし）です。病理診断部は、開学以来、診療の中で生きる質の高い病理診断の実践施設としてリーダー的な地位を築いてきました。現在、診療科としての病理診断科も標榜し、10名の認定病理専門医、3名の専門研修医、大学院生（博士課程）2名が在籍し、各診療科からの高い要求に応えています。



病理診断は、特に現在のがん診療においては、最終（確定）診断と位置づけられており、スタッフ一同、その重責を自覚しながら、日々仕事を行っています。このため、必要に応じて臨床担当の先生方とも何度も話し合い、時には激論もしながら、患者さんにとって何が適切な医療であるのかを考えているのが病理診断科に在籍する病理医の姿と言えます。以下、当科の概要を紹介します。

- 年間病理検体数は、組織診 15,000 件強、細胞診 約 17,000 件、術中迅速診断 約 750 件と、国内の大学病院の中でもトップクラスです。
- スタッフの出身大学は様々（現在の状況：宮崎、東京、東医歯、信州、自治、富山医薬、大分、東医、日医、高知、東女医）で、学閥はありません。
- 専門研修（病理診断医コース）は、3年間のトレーニングで、特殊なものを除き独自に病理診断を遂行できる力を養うことを目標としています。
- 自治医科大学附属病院は、栃木県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、新小山市市民病院、芳賀赤十字病院、JCHO うつのみや病院などと連携して、それぞれの得意分野による相互補完を図っています。
- その他、大学院生（社会人大学院生を含む）として病理学を学ぶ道もあります。

研修に関わる具体的なこととしては：

- ① 病院が地域の総合病院の機能と大学病院としての高度専門病院としての機能を兼ね揃えているため、一般的な症例からまれな症例まで症例が多彩で、また変な

偏りがなくバランスよく症例を経験することができると思います。

- ② 経験豊かな指導医が多く、専門領域（消化器、呼吸器、婦人科、皮膚、腎臓、ほか）もさまざまなので、その道の専門家に、すぐに直接意見を聞くことが出来ます。
- ③ 学外講師を招待しての「JICHI 病理診断セミナー」も年に数回開催して、その分野の最先端情報を皆で学んでいます。
- ④ 臨床各科のレベルが高いことに加え、病理学の指導医には臨床医としての経験を有しているスタッフも多く、病理医の独りよがりではなく、臨床に適切にフィードバックできる病理診断学を学ぶことができます。また、臨床科から定期的に病理診断の研修に来る人たちもほぼ継続的に受け入れています。
- ⑤ 最初から大学院生となり病理診断学を学ぶ「病理アカデミック・レジデントコース」もあります。

◆他にも良いところ、お薦めのこといろいろあります。ぜひ、下記にメールください。また、可能なら一度直接お越し下さい。

※宿舎や身分・待遇等については卒後臨床研修センターのホームページを参照して下さい。

※病理診断部／病理診断科 連絡先：

電話 0285-58-7186, Fax 同 44-8467

<http://www.jichi.ac.jp/pathology/>

nfukushima@jichi.ac.jp（福嶋）



# 臨床検査医学講座

## 1. 当講座の特色

当講座の初代主任教授、河合忠先生は我が国において検体検査を中心とする臨床検査医学の礎を築かれた方で、2代目主任教授、伊東紘一先生は我が国における超音波検査学の草分け的存在です。両先輩に導かれ、これまで多くの臨床検査専門医、超音波専門医を輩出しており、その伝統は現在のスタッフに受け継がれ、これらを研修するには絶好の環境にあります。また、学術活動も活発であり、多くの英文原著論文が発表されています。

ところで、臨床検査専門医の identity がはっきりしない、何をやる専門医なのか、とよく話題になります。これは歴史が浅く、identity を確立するまでの実践者が少ない、施設の人事に影響されてきた、その他いろいろな事情によります。従って、施設によってかなり趣に差があることは否定しません。その中で私たちは、臨床検査業務を中心に行いたい方、超音波検査を極めたい方、臨床検査の研究に重心を置きたい方、いろいろな方向性を持った方に対応するつもりです。当施設で専門医をとられた方はスタッフとして残っていただき、診療、教育、研究をバランスよくこなし、大学スタッフとしてキャリア形成できるよう支援していきます。

## 2. 研修の特色

全体の研修期間は3年です。連携施設には、附属さいたま医療センター、東京都済生会中央病院、茨城県立中央病院、埼玉がんセンターがあります。研修は基幹施設である本学附属病院と、連携施設のうちの一つを選択して研修します。

まず、当講座と附属病院で、臨床検査医学の総論と生理機能検査全般、超音波検査を学びます。その後3～6ヶ月程度連携施設に出向し、超音波検査と一般検査、または血液検査を学びます。このころには超音波診断技能がある程度身に付きますので、以後は超音波診断業務を行いながら臨床検査全般を研修します。附属病院では、血液像（骨髄像）、免疫電気泳動像の判読を学びつつ、検査報告書を作成するという業務を担います。勿論、臨床化学、微生物検査も研修します。

2年目からは研究も同時にスタートします。当講座では、

超音波検査技術の開発、血漿蛋白、アミロイドーシス、血清脂質、腎代謝、などの研究が行われており、それらの研究者についてもいいですし、これら以外のテーマでも学内の他部門と連携して指導します。研究のための時間は十分に確保できます。

3年目に研修が無事修了認定されると、専門医資格認定試験を受験することになります。認定試験は筆記試験と実技またはそれに準じた動画による試験になる予定です。

なお、新専門医制度は初期臨床研修を終えてすぐの方を主な対象にしていますが、当プログラムは、他科からの転向を含め、ベテランになってからでもこの分野に興味を待たれる方も歓迎します。

また、新専門医制度における超音波専門医の位置づけは現在不明確ですが、当講座では、臨床検査専門医と超音波専門医の両者を取得するよう勧めています。

興味を持たれた方は、下記の連絡先に是非相談してください。相談されたからといって強制などはしませんので遠慮なく連絡いただけたらと思います。



【臨床検査医学講座ホームページ】

<http://www.jichi.ac.jp/usr/cpc/clipatho/index.html>

【日本臨床検査医学会ホームページ】 臨床検査全体のこと、専門医のことを詳しく知りたい方はご覧ください。

<http://www.jslm.org/index.html>

【卒後臨床研修センター ホームページ】 新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】 研修プログラム統括責任者

山田俊幸 yamadanji@jichi.ac.jp

# 総合診療

自治医科大学では建学以来「医療の谷間に灯をともし」を合い言葉にしてきました。医療の谷間とは、へき地・離島といった地域の谷間に加えて、「総合医」という診療領域の谷間を指すようになりました。最近ではさらに、「地域社会のリーダー」といった地域づくりの谷間に灯をともし人材が求められています。

総合診療専門医の使命は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応することです。総合診療専門医に欠かせない7つの資質・能力が示されています。

## 1. 包括的統合アプローチ

地域住民が最初に受診する場では、未分化で多様な訴えや、複数の課題を抱える患者に遭遇します。これらの課題は健康課題だけでなく、医師・患者関係の継続性や多職種との関係性のこともあります。これらを踏まえた医療・ケアを提供する能力を身につけます。

## 2. 一般的な健康問題に対する診療能力

一般的な症候に対する臨床推論に基づく鑑別診断や、必要に応じて他の専門医・医療職・介護職等と連携をとりながら適切なマネジメントを身につけます。

## 3. 患者中心の医療・ケア

患者の身に起きている疾病だけでなく、それに対する患者の病（やまい）としての体験、さらには患者の健康観を重視します。この3つの要素を取り囲む家族や地域といった背景要因を踏まえて、医師・患者関係の強化を目指す医療の方法を身につけます。

## 4. 連携重視のマネジメント

家族、地域、多職種、介護を含む組織全体に対するマネジメント能力を身につけます。

## 5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ

医療制度、医療文化その他の現状を把握した上で、地域の保健・医療・介護・福祉事業に積極的に参画する能力を身につけます。

## 6. 公益に資する職業規範

高い倫理観を持ち、ワークライフバランスを保ちつつ生涯にわたり自己研鑽を積む習慣を身につけます。

## 7. 多様な診療の場に対応する能力

外来医療、救急医療、病棟医療、在宅医療それぞれの特徴を踏まえた知識・技術・態度を身につけます。

自治医科大学の総合診療専門研修プログラムでは、総合診療内科における病院総合診療研修（総合診療研修II）に加えて、連携施設における地域包括ケア研修（総合診療研修I）を行います。加えて、本院もしくは連携施設における内科研修および救急科研修、連携施設における小児科研修を行います。



指導医研修会・レジデント報告会の様子

研修期間は3年間です。自治医大卒業医師や地域卒卒業医師など勤務先に配慮が必要な場合には個別に相談に乗ります。また女性医師も安心して研修できる環境を整備しています。現在、自治医大卒業の女性医師が家庭医療研修中です。多くの家庭医療専門医が当プログラムを巣立ち、全国で活躍中です。

開拓精神の気概ある医師を求めています。修了後は、本院・関連病院・その他自分の希望するフィールドで、自ら総合医としてだけでなく、地域社会のリーダーとして活躍していきます。

### ローテーションの一例

1年目	病院総合診療（6-12ヶ月）		
2年目	内科（12ヶ月）		
3年目	小児科（3ヶ月）	救急（3ヶ月）	地域包括ケア（6-12ヶ月）

【自治医科大学 地域医療後期研修プログラム】

URL : <http://www.jichi.ac.jp/chiikik/>

Email : [chiikikenshuu@jichi.ac.jp](mailto:chiikikenshuu@jichi.ac.jp)

お気軽にお問い合わせください。



---

作成・連絡先

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター 後期研修管理部門  
専門研修プログラム連絡協議会

〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

T E L : 0285-58-7252 (直通)

F A X : 0285-44-1155

メール : rinshoukenshu@jichi.ac.jp

H P : <http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

---



